



東海村プロモーションリーフレット

# TOKAI

## VILLAGE Promotion Leaflet



# About us

# TOKAI VILLAGE

## これまでの歩みと これからの挑戦

我が国における「原子力」発祥の地であり、その歩みとともに、飛躍的な発展を遂げてきた東海村。

静かな農村地域であった東海村は、人口の増加と都市化の進展により、住みやすいまちへと姿を変えつつ、多くの村民にも愛され続けてきました。それに加えて、住民同士が支え合う意識も非常に高く、「協働のまちづくり」に向けた活動も盛んに行われてきました。

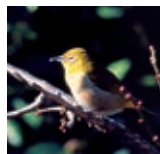
時代が移り変わり、東海村も人口減少社会に立ち向かっていかなければなりません。これからも「住み続けたいまち」を目指して、常に、新しいことにチャレンジしながら、未来を見据えた施策を展開していく。

これが、東海村の新たな挑戦です。



### ▶ 村章

昭和38年4月1日制定  
「とうかい」の「と」を、原子力のγ(ガンマー)と太平洋の波で模様化したものです。



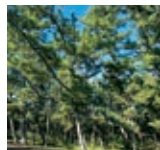
### ▶ 村の鳥 メジロ

平成7年  
2月28日制定



### ▶ 村の花 スカシユリ

昭和60年  
3月6日制定



### ▶ 村の木 黒松

昭和55年  
10月14日制定

### ▶ 災害時相互応援協定締結都市

三重県 長崎県 富山県 新潟県 大阪府  
菟野町 川棚町 砺波市 妙高市 熊取町

### ▶ 友好姉妹都市

アメリカアイダホ州  
アイダホフォールズ市

### ▶ 生活関連施設整備状況

市町村道舗装率	79.78%	汚水処理人口普及率	88.60%
水道普及率	99.70%	下水道普及率	85.70%

出典：茨城県社会生活統計指標(平成28年3月31日現在)



## 1 半径4kmにまちの機能が集約 便利なコンパクトシティ

まちの規模がコンパクトなため、子育て、教育、医療、福祉などの公共サービスを、きめ細やかに届けることができます。必要な場所にもすぐにアクセスでき、村民全体の約70%が「村に住み続けたい」と感じています。



## 2 村独自のサポートが充実 子育て・教育しやすいまち

村民全体の約86%が「村の子育て環境・支援に満足」と感じている東海村では、妊産婦や高校3年生までの医療費の実質無料化や、1クラスを30人以下とする「少人数学級」の導入など、村独自の子育て・教育施策を展開しています。



## 3 最先端の科学技術が集結 サイエンスシティ

原子力発祥の地であるとともに、J-PARC(大強度陽子加速器施設)や原子力の研究所をはじめとした最先端の科学技術や研究施設が集積する東海村には、科学のまちとしての一面もあります。



### ▶ 行政機関



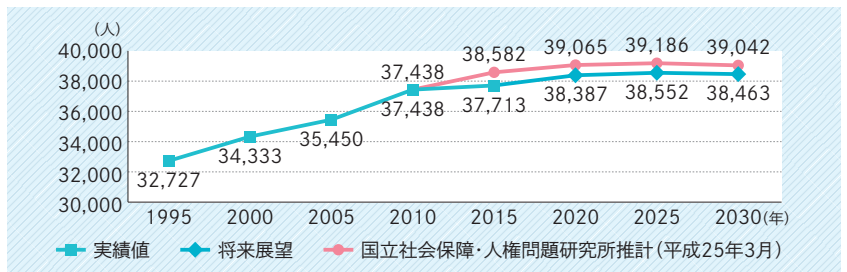
職員数：403人  
(一般行政職283人)  
平成30年4月1日現在

### ▶ 東海村議会



議員定数：条例20人  
(現に在職する議員数)  
平成30年4月1日現在

### ▶ 人口の推移と将来推計



出典：東海村人口ビジョン(※実績値については、国勢調査結果)

### ▶ 村の特徴的な取り組み等



#### 地域公共交通の充実

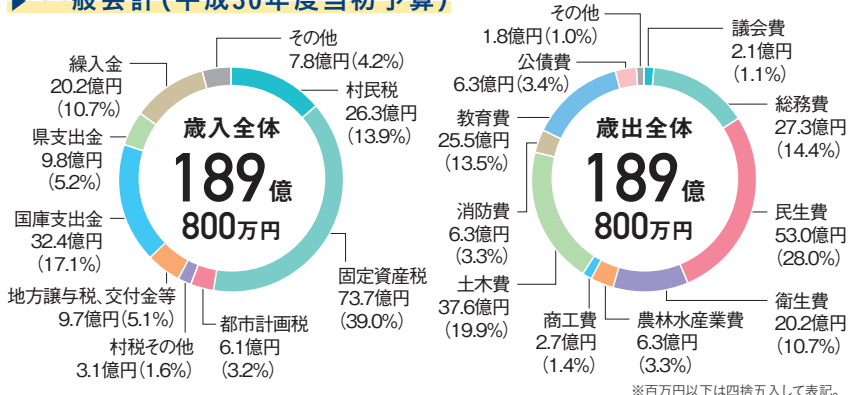
村内を乗り合い形式のデマンドタクシーや、路線バス(通称：イモジーバス)が走り、子どもや高齢者にも優しい便利な公共交通機関を整備しています。



#### 「ホッケーのまち TOKAI」を目指して

いきいき茨城ゆめ国体2019のホッケー競技会場となる東海村。国体を契機としたホッケー競技のさらなる定着や開催後を見据えた取り組みを推進しています。

### ▶ 一般会計(平成30年度当初予算)



※百万円以下は四捨五入して表記。

### ▶ 特別会計

87億3,413万円

国民健康保険や介護保険、区画整理など、一般会計と区別が必要な会計

### ▶ 企業会計

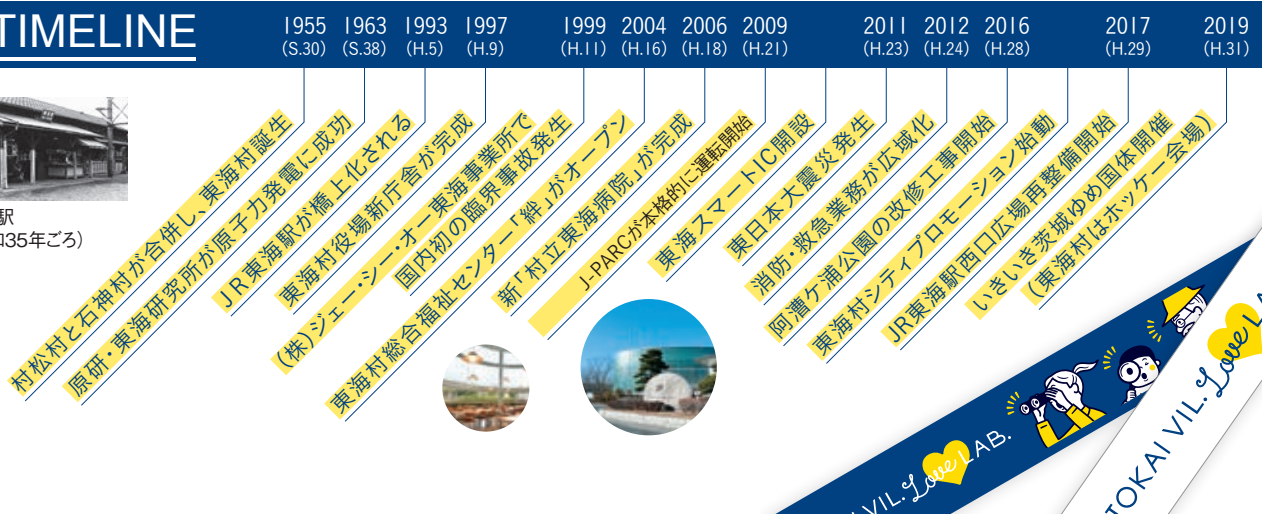
22億5,566万円

水道や病院等、利用料金などによる収入で運営している会計

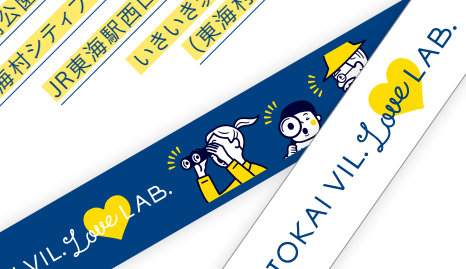
## TIMELINE

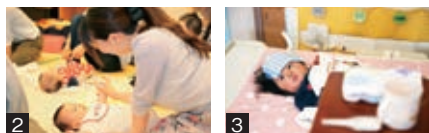


東海駅  
(昭和35年ごろ)



東海村を

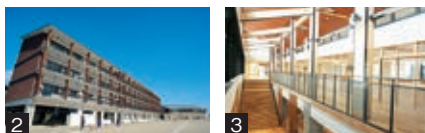




1. 母子健康相談 (保健センター)
2. 親子の絆づくりプログラム (BPプログラム)
3. 東海村病児・病後児保育施設 (イメージ)

## 01 安心をサポート 子育てしやすいまち

妊娠・出産・子育てを切れ目なく支える「とうかい版ネウボラ」として、子育て世代包括支援センター「はぐ♥くみ」を設置し、母子保健コーディネーターやマイ保健師により、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進しているとともに、母子健康相談や親子の絆づくりプログラム (BPプログラム) などを実施し、一人ひとりと丁寧に向き合いながら子育てを支援しています。また、保護者の子育てと就労の両立を支援する「東海村病児・病後児保育施設」を整備し、子育て世代に選ばれるまちを目指します。

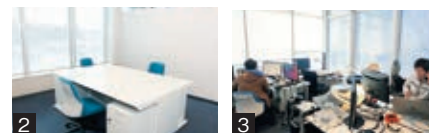


1. 小学校でのNLTによる外国語授業の様子
2. 2014年に新校舎が完成した東海中学校
3. モダンなデザインで広々とした校舎内

## 02 可能性を伸ばす 独自の学校教育

一人ひとりの子どもたちの“学び”と“育ち”を大切にしています。村独自の取り組みとして、小学1・2年生を1クラス30人以下とする「少人数学級」の導入や、先生とサポートの先生と一緒に授業をする「スタディ・サポーター」の配置を行っています。

また、NLTによる外国語授業や、ICT機器等の活用など、国際化や情報化が進む社会に対応できる質の高い教育環境を整備し、健やかで人間性豊かな子どもを育み、生きる力を育てる学校教育を推進しています。



1. 東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」
2. 創業支援の取り組みの1つ、レンタルオフィス
3. レンタルオフィスを利用する企業

## 03 最先端の科学技術を 活用した産業振興

サイエンスシティとしての特性を生かし、村内の研究機関や大学、村内企業とのマッチングによる新たな産業と雇用の創出や、次代を担う原子力人材の育成・確保などを推進しています。また、創業支援の拠点として、東海村産業・情報プラザにワンストップ相談窓口やレンタルオフィスなどを整備し、創業しやすい環境づくりを進めているほか、インキュベーションマネージャーや関係機関による創業支援ネットワークを構築し、経営・技術面などの課題解決に向けた総合的な支援にも取り組んでいます。

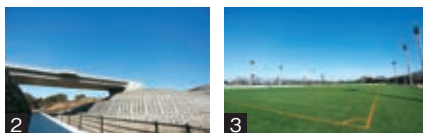


1. 東海ファーマーズマーケットにじのなか
2. 東海村産の農作物
3. 学校給食での地産地消の取り組み

## 04 持続可能な魅力ある農業

東海村の農業を守り続けるために、持続可能な都市近郊型農業モデルの構築を目指し、中長期的な展望に立った東海村農業振興計画を策定し、体系的な施策展開を図っています。

農業者の高齢化・後継者不足の解消に向け、農業支援センターを中心とした担い手の確保や育成支援を図るとともに、特産品である「ほしいも」のブランド化や欧米諸国向けの輸出米の取り組みなどによる農産物の新たな市場の開拓、地元の学校や飲食店、スーパーと連携した地産地消の取り組みなどを推進しています。

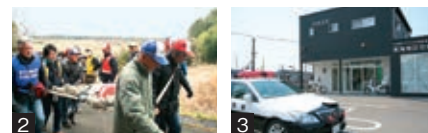


1. 整備が進むJR東海駅西口広場
2. 交通環境整備事業の1つ、神楽沢橋の工事
3. いぎいき茨城ゆめ国体会場である阿漕ヶ浦公園

## 05 自然と都市が調和 住み続けたいまち

生活基盤となるインフラを整備し、心安らぐ豊かな自然環境の保全に配慮しつつ、快適な都市環境づくりをバランスよく進めています。

2019年開催の「いぎいき茨城ゆめ国体」を契機として、JR東海駅西口広場やホッケー競技会場である阿漕ヶ浦公園の整備などを行っています。都市緑地や幹線道路整備による生活環境の維持向上、国道6号の4車線化に向けた取り組みや国道245号等の効果的な活用を図るなど、さらに住み良いまちづくりを進めています。



1. 原子力災害を想定した広域避難訓練（災害対策本部運営訓練）
2. 地域住民が主体となって行われる防災訓練
3. JR東海駅西口に移転・整備されたひたちなか警察署東海地区交番

## 06 安全・安心に暮らせるまち

地震・津波や風水害、原子力事故・災害に備え、広域避難計画の策定と広域避難訓練の実施、消防団や自主防災組織の活動支援、消防団器具置場の改築、原子力安全協定の運用、他自治体との災害時応援協定の締結、避難生活物資の備蓄など、防災体制等の整備・強化を進めています。

また、街頭防犯カメラの設置による犯罪防止等に取り組むなど、地域の防災力や防犯力を高め、安全に安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

半径4kmの村に広がる、

# 多様な可能性

茨城県の県央に位置する東海村。水戸市から北東へ約15km、東に太平洋が広がり、南がひたちなか市、北が久慈川を境に日立市と接しています。

村人口は、約3万8千人と、沖縄県読谷村に次いで全国2番目であり、常磐自動車道やJR常磐線などを通じて首都圏各方面からアクセスしやすく、茨城空港からもほどよい距離にあります。

「村松山虚空蔵堂」や「大神宮」などの歴史・文化的財産が存在し、「原子力発祥の地」である東海村には現在、最先端科学技術を有する研究機関や企業が集積するなど、科学のまちとしての一面もあります。

さらに、季節ごとに村を彩る自然と、高度な都市機能が調和した環境も特徴的です。伝統と革新、自然と都市などの要素が結びつくこの村には、多様な可能性が広がっています。



## ▶ 人口

37,682人

男性: 18,980人 女性: 18,702人

出典:「とうかいの統計」常住人口(平成31年1月1日現在)

村人口  
全国2位

## ▶ 世帯数

14,841世帯

出典:「とうかいの統計」常住人口(平成31年1月1日現在)



## ▶ 人口密度

991.6人/km<sup>2</sup>

出典:茨城県常住人口調査(平成31年1月1日現在)

## ▶ 15歳未満の人口割合

約14.9%

出典:茨城県常住人口調査(平成31年1月1日現在)

県内4位



## 観光 SIGHTSEEING SPOTS

日本三体虚空蔵のひとつ「村松山虚空蔵堂」や水戸公園に縁の深い「大神宮」などの歴史・文化的財産のほか、四季折々の魅力を映す「東海十二景」などがあります。



村松山虚空蔵堂



大神宮



三重塔(村松山虚空蔵堂)



豊受皇大神宮



阿漕ヶ浦公園

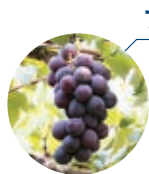


村松海岸(八間道路)

## 特産品 LOCAL SPECIALTIES

さつまいもを加工した「ほしいも」は本村を代表する特産品です。そのほか、地元でつくられた手土産品を「東海村おすすめセレクション」として認定しています。

生産量  
全国1位の  
主産地



ブドウ ほしいも

東海村・ひたちなか・那珂市で全国生産量の90%以上を占めています。



ナシ



東海村  
マスコットキャラクター  
イモゾーファミリー

### 東海村おすすめセレクション



東海ファーマーズマーケット にじのなかでは、地元の朝採り野菜や果物を販売しています。



### ▶ 財政力指数

1.46

出典：市町村決算の概要(平成29年度)

県内  
1位



### ▶ 子育て環境・支援への満足度

満足と回答  
村民全体の 約 86%

出典：「子ども・子育て支援事業計画」  
策定のためのアンケート調査(平成26年3月)



### ▶ 住民一人当たりの教育予算

76.85 千円

出典：「茨城県社会生活統計指標」(平成30年5月)

周辺  
エリア  
2位

### ▶ 小学1・2年生の少人数学級

唯一 /8自治体

(平成31年1月1日現在)

### ▶ 合計特殊出生率(ベース推計値)

1.76

出典：「茨城県社会生活統計指標」(平成30年5月)

県内  
2位

### ▶ 10万人当たりの保育所数

23.87 か所

出典：「茨城県社会生活統計指標」(平成30年5月)

周辺  
エリア  
1位

### ▶ 住み続けたい人が多い!

村民  
全体の 約 70%

出典：「まちづくりアンケート」  
(平成27年3月)



### ▶ 緑地・公園数

81 か所

出典：「東海村公園マップ」  
(平成25年4月)



### ▶ 転入率が高い!

周辺  
エリア 第2位 /8自治体

出典：「茨城県社会生活統計指標」  
(平成28年5月)



### ▶ 人口千人当たりの公立図書館蔵書数

4,974 冊

出典：「茨城県社会生活統計指標」  
(平成28年5月)

周辺  
エリア  
1位

